

〔資料1〕 これからの^{のうぎょう}農業

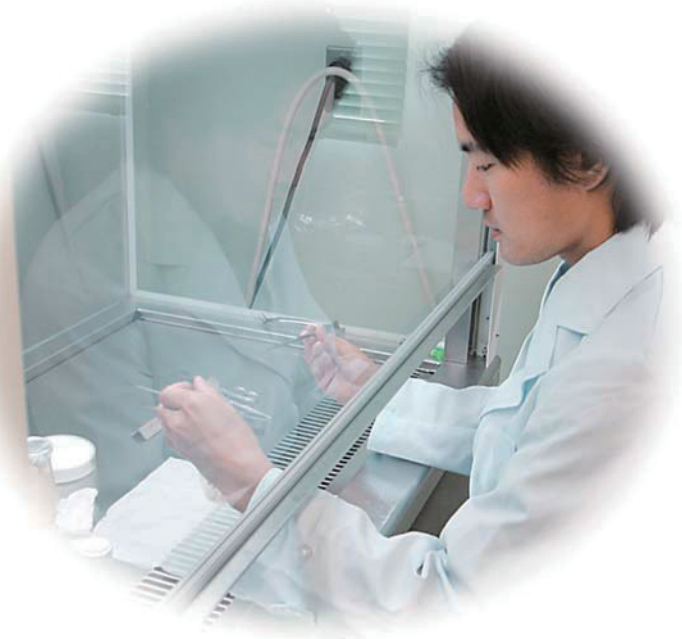


緑とうるおいのある暮らしを守る



ふれあいを深める

ぎじゆつ
技術を学ぶ

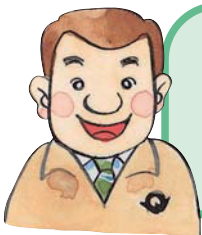




力を合わせる



新^{のう}せんで安全な農^{さん}産物^{ぶつ}をとどける



山口県では、これからの農業をどうするかを話し合いながら、
いろいろな取り組みを進めています。わたしといっしょに、こ
れらの取り組みについて、もう少しくわしく見てみましょう。

(1) 地域を支える人を育てる



県庁のおじさんの話

農業をする若い人が減り、お年寄りが増えています。その一方で農業に生きがいを見出し、取り組み始めた人も数多くいます。



農業大学校

防府市にある農業大学校は、実際に作物や家畜を育て、農業や地域のリーダー・あとつぎとして必要な知識や技術を学ぶ学校です。



農業を学ぶ高校生

農業高校では、花や野菜などを作ったり、バイオテクノロジーなどの技術を学んだりします。



女性の活やく

女性は農業を支える大きな力であり、女性の手による野菜、花などの産地が、県内各地で見られるようになりました。また、農産物を利用して加工品を作り、はん売しています。



地元農業者の活やく

子どもたちの農業体験学習に農場を貸したり、自分たちが作った作物を給食に使ってもらったりするなど、農業を学ぶ学習に協力しています。

(2) 力を合わせる



県庁のおじさんの話

山口県では、農業に取り組んでいる人たちが、協力して作物を作ったり、売ったりしています。



みんなでお金を出し合って大型機械きかいを買い、みんなで利用します。



みんなで話し合っって助け合います。

トマトを共同で出荷している人の話



大きなスーパーや、県外で、山口県の農産物せん ぜんを宣伝し、売ります。

農家で作ったトマトを選果場せん か じょうに運び、機械でトマトの品質・色・大きさごとに分けたり、きずがないか調べたりして箱につめます。

選果場ができたおかげで、今までそれぞれの農家がしていた仕事が減りました。

また、一つの箱に大きさ、色、味がほとんど同じトマトが入ることになるので、お客さんに安心して買ってもらえるようになりました。



(3) 新せんで安全な農作物をとどける



けんちょう 県庁のおじさんの話

お店に来るお客さんは、新せんで安全な農産物のうさんぶつをこのまれます。その人たちの期待にこたえられるような野菜や果物などを作るため、たくさんの方が努力をしています。



しじょう
市場に出す前の農産物が安全かどうかをけんさ
検査します。



農薬などをこれまでより減へらして、農産物を作っている人たちを、かんきょう
環境にやさしい農家という意味のエコファーマーとしてみとめます。

エコファーマーとは？

「しぞくのうぎょうほう
持続農業法」という法りつにもとづいて、化学農薬・化学肥料ひりょうを今までの量より約3分の1減らすように計画を作り、その計画が県知事にみとめられた農家やグループのことを言います。



ジェイエイ JAのおじさんの話

地産・地消とはちいき
地域の農産物は地域で食べようという意味です。県外から運ばれてきた農産物より、住んでいる場所の近くから運ばれてきたほうが、新せんなので、おいしく食べてもらうことができます。最近では学校給食でも地産・地消として、学校の近くで作られた農産物を使うところがふえています。



(4) 技術を学ぶ



県庁のおじさんの話

のうりんそうごうぎじゅつ
農林総合技術センターでは、県民のみなさんに役立つ、農業・畜産・
林業のさまざまな技術のかいはつ開発やけんしゅう研修に計画的に取り組んでいます。

新しい品種や県産物を利用した加工品の開発



はなっこりー（野菜）



プチソレイユ（ユリ）



やまぐち黒どり



たけのこ水煮

新技術の開発



これまでのいちご栽培



楽な姿勢でいちごを栽培
できるたなの工夫



牛を放牧して荒れ地をなくす新技術の指導

楽に作業できる方法や環境にやさしい栽培方法の研究を行っています。

開発した新技術の指導を行っています。

農林業の体験研修や指導者の育成



野菜のつくり方を畑で指導しています。



材木を運ぶ機械きかいの安全な使い方の指導を行っています。

農林総合技術センターのおじさんの話

農林総合技術センターでは農家の希望きぼうにこたえるために、病気に強い新しい品種や、作業が楽になる方法を研究しています。また、消費者のために、安全で安心な栽培方法やよりおいしくなる栽培方法なども取り組んでいます。



(5) ふれあいを深める

けんちょう 県庁のおじさんの話



今、「むら」と「まち」の交流がさかんになっています。まちの人は、うるおいやすらぎを求め、むらにでかけて自然とふれあい、農家との交流を深めています。一方、むらの人はまちの人との交流を深めるために、地域のよさを生かしたさまざまな取り組みをしています。



かんこうのうえん
観光農園（山口市）



道の駅
道の駅（萩市片俣）



農産物直売所（岩国市尾津）



たなだ
棚田体験ツアー（長門市）



豊浦コスモスまつり（下関市豊浦町）

この他にも市民農園、農村公園、オートキャンプ場、フラワーロード等で交流の輪が広がっているんだよ。



たくさんの交流があるんだね。
ぼくもぜひ参加してみたいな。

(6) 緑とうるおいのある暮らしを守る



県庁のおじさんの話

山口県では、県民のみなさんといっしょになって、住みよいくらし、緑豊かな大地、きれいな水を未来に残すための取り組みをしています。そのためにはどうすればいいかみなさんもぜひ考えてみてください。

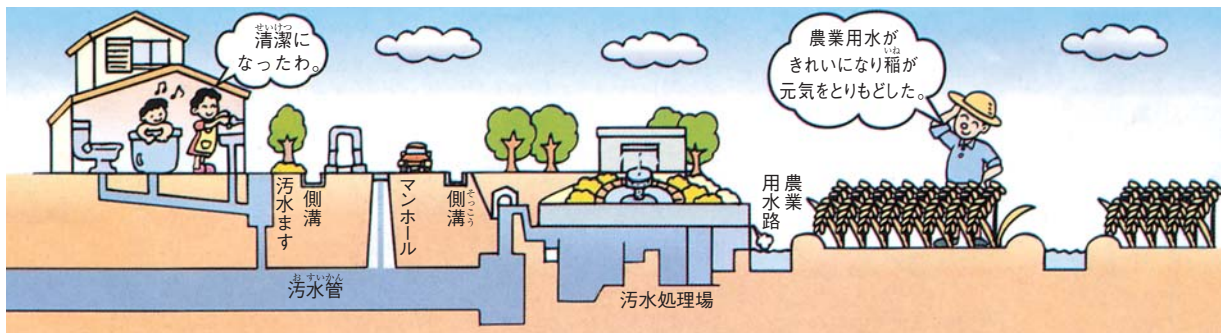


山に木を植える活動（周南市）



木を使った工作体験（山口市）

下水処理のしくみ



よごれた水をきれいにして川に放流し、生活や農業、水産業に役立ってます。

整備前



整備後



田や川の整備をします。

こういった小さな取り組みが大きな力になって地球の温暖化を防いだり、わたしたちの暮らしを守ったりすることにつながるんだよ。



未来の人たちのためにも、住みよいくらしや、美しい環境を残してあげたいね。